

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）

「江界精神」10周年と金正日総書記の慈江道現地指導

『朝鮮新報』によれば、金正日総書記は、2008年1月25日、慈江道の道庁所在地、江界市にある江界養鶏場、江界養豚場を訪問、翌26日には慈江道長江郡にある長江キノコ工場、長江食料工場、長江ウサギ種畜工場、同29日には同道内の3月5日青年鉱山を現地指導した。

北朝鮮経済が「苦難の行軍」と呼ばれる危機にあえいでいた時期である1998年1月に総書記は、今回と同じく慈江道江界市を中心とした地域を現地訪問し、これを機に苦しい中でも自力更生により経済危機を克服するためのキャンペーンが繰り広げられ、これが経済建設のモデルケースとして、「江界精神」と呼ばれ賞賛された（同名の小説も存在する）。

『朝鮮新報』は、北朝鮮の国内メディアは総書記の慈江道現地指導10周年に大きな意義を付与し、「江界精神」を再び強調している、と分析している。

南北経済協力の動向

南北交易額

韓国・統一省が2008年1月7日、2007年度の南北交易額を発表した。下表のとおり、2007年の南北交易は、17億9,000万ドル（約1,939億円）に達し、過去最高を記録した。

このうち、商業性取引は14億3,117万ドル（約1,550億円）で前年度の9億2,807万ドル（約1,005億円）から54%増加し

た。一方、非商業性取引は3億6,672万ドル（約397億円）で13%減少した。非商業性取引が減少する一方、商業性取引が増加し、南北交易の約8割を占めるようになってきたことは、南北間の経済交流が引き続き拡大傾向にあることを示しているが、同時に実質的な貿易に相当する部分は、南北交易の44%を占めるに過ぎず、開城工業地区などに対する投資（多くの設備や建設資材が南側から搬入されている）もここに含まれていることに注意が必要である。

開城工業地区（開城工団）の現状

開城工業地帯第1段階100万坪（3,285km²）の本団地は、2006年5月末に敷地の造成工事が完了した。分譲も当初の予定よりは若干遅れているものの順調に行われており、本団地の工場建設が活発に行われている。工業団地のインフラとなる、道路や上下水道、緑地等の団地内の施設、3万トン/日の処理能力を持つ汚水処理場、6万トン/日の処理能力を持つ用水施設、15.4KVの送電線および10万KWの能力を持つ変電所はすでに完成している。

2007年12月11日には、南側のムンサン駅と開城工業地区に隣接する北側の板門駅を結ぶ貨物列車が週末を除く1日に1往復の運行を開始した。運行区間が中途半端なため、ほとんどの資材がトラックで運ばれている現状は当然変化しないと見られているが、今後の鉄道運行区間の延伸を見越した南北鉄道・軍当局間の習熟訓練と考えれば、その意義は小さくない。

（ERINA調査研究部研究主任 三村光弘）

表 2007年の南北交易統計

（単位：千米ドル）

大区分	中区分	小区分	2007年1月～12月			構成比
			搬出	搬入	合計	
商業性取引	実質交易	一般貿易	20,165	441,244	461,409	25.7
		委託加工貿易	125,393	204,517	329,910	18.3
		小計	145,558	645,761	791,319	44.0
	経済協力事業	開城工団事業	339,498	101,180	440,678	24.5
		金剛山観光事業	98,931	15,824	114,755	6.4
		その他の経済協力事業	10,619	1,296	11,915	0.7
	小計	449,048	118,300	567,348	31.6	
軽工業協力	71,272	1,234	72,506	5.4		
合計		665,878	765,295	1,431,173	79.6	
非商業性取引	対北支援	民間支援	250,034	14	250,048	13.9
		政府支援	78,853	2	78,855	4.4
		小計	328,887	16	328,903	18.3
	社会文化協力事業	898	34	932	0.1	
	エネルギー支援	36,889	0	36,889	2.1	
合計		366,674	50	366,724	20.4	
総計		1,032,552	765,345	1,797,897	100.0	

（出所）韓国統一省『2007年度南北交易動向報道補助資料』（2008年1月）3頁の表より構成